

6月27日 高浜3号用MOX燃料搬入抗議行動

高浜3・4号再稼働とプルサーマル再開の阻止に向けての決意を新たに

6月27日早朝、原子力発電に反対する福井県民会議等4団体の呼びかけで、高浜3号用MOX燃料搬入抗議行動が高浜原発現地にて行われた。

朝4時半に敦賀駅前から県民会議のチャーターしたバスに乗って、高浜原発に向かった。高浜原発を目の前にする対岸の音海地区の広場に着くと、早朝にもかかわらず、たくさんの市民や報道関係者が集まっていた。6時半には、MOX燃料を積んだ船が姿を現した。福井、関西、岐阜、東京など各地から集まってきた約150名の人々と共に、横断幕等を掲げ、「関電は住民の安全を確保しろ」「MOX燃料を原子炉に装填するな」「MOX燃料を認めないぞ」「MOX燃料の船はただちに帰れ」等々シュプレヒコールで抗議を続けた。しかし、関電は抗議を無視し、7時頃に高浜原発に船を接岸させた。



続いて、抗議集会が行われた。まず、福井県民会議の水上賢市事務局長が、「関電は、フランスからいつまでも預かっているのは困ると言われたため輸送を決めたと言っていたが、6月14日の会見では、プルサーマルを前提として高浜3・4号の再稼働申請を行うと発表した。このように既成事実を積み上げて、なし崩し的に自分の思う方向に進めていこうとする関電のやり方に強く抗議していく」「再稼働しないと産業空洞化が起こるといふ経済界に、核のゴミはどうするのかと聞きたい」「プルサーマルを行っていた福島I-3号機は未だに放射能が強く近づけない状況。ここで事故が起きた時もそうなるのを忘れてはならない」と訴えた。原子力資料情報室の西尾漢共同代表は、原子力政策は破綻しており、矛盾を先送りしても問題がさらに大きくなるだけ、エネルギー政策を変えていく必要があるとアピール。グリーン・アクションのアイリーン・美緒子・スミス代表は、今回の輸送は、①プルトニウムの利用計画を明確にすることを定めた2003年の原子力委員会決定に違反している、②福島原発事故後、MOX燃料について新しい基準は作られていないため、本来なら使用することに対して認可もできない状態にある、③これまで70以上の国々が輸送に強く反対してきた、④国内でも佐賀、鳥取、京都をはじめ全国のいくつものNGOが抗議している、⑤今回搬入されたMOX燃料の品質を保証するデータが公開されていない等を紹介し、絶対にMOX装荷を阻止しようと訴えた。

原発設置反対小浜市民の会からは、「9年前に音海小学校に勤めていた。原発があるため海に入らず、子どもたちは浜っ子なのに泳げない子がほとんどだった。子どもたちから海を、そればかりか命を奪うような恐ろしいものがあるのは絶対に許せない」と思いが力強く語られた。ル・パップさんは、アレバ社しか今回のMOX燃料の品質を知らないという問題についてアピールした。そして、再び、輸送船と高浜原発に向かってシュプレヒコールで抗議した。



その後、申し入れ書や抗議文を提出するために、高浜原発ゲート前に向かった。警察と関電のものものしい警備の中、呼びかけ団体等が申し入れ書等を読み上げ、関電職員に提出した。美浜の会とグリーン・アクションも共同で抗議文を提出した。最後にシュプレヒコールを行い、抗議行動を終えた。関電に対する怒りと、高浜3・4号の再稼働とプルサーマル再開を何としても阻止したいとの思いを強くして高浜原発を後にした。(KB)